

令和元年度 第67回北信越高等学校定時制通信制総合体育大会実施要項

1. 主催 北信越高等学校体育連盟、石川県高等学校体育連盟
全国高等学校定時制通信制教育振興会北信越地区協議会
2. 共催 石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、津幡町教育委員会
3. 主管 石川県高等学校体育連盟定時制通信制専門部
石川県高等学校定時制通信制教育振興会
4. 後援 北國新聞社
5. 期日 令和元年10月19日(土)～20日(日)

6. 会場	専門委員長会議	いしかわ総合スポーツセンター	
	総合開会式		
	種目別開始式	各競技会場	
	競技別監督者会議		
開催競技・会場	軟式野球	津幡運動公園野球場	石川県立津幡高校グラウンド
	バスケットボール	いしかわ総合スポーツセンター	
	バレーボール	金沢市営中央市民体育館	
	バドミントン	いしかわ総合スポーツセンター	
	卓球	いしかわ総合スポーツセンター	
	ソフトテニス	西部緑地公園テニスコート	
	柔道	石川県立武道館	
	剣道	石川県立金沢中央高校体育館	
	サッカー	安原スポーツ広場	

7. 日程

10月19日(土)	11:30～12:00 専門委員長会議・公式練習	競技別開会式に参加する競技 ・軟式野球 ・バレーボール ・ソフトテニス ・柔道 ・剣道 ・サッカー
	12:20～12:40 開会式リハーサル	
12:45～12:55 選手・役員整列		
12:55～13:00 来賓着席		
13:00～13:20 総合開会式		
13:30～13:50 競技別監督会議・競技練習		
14:00～ 競技開始		
総合開会式に参加する競技 バスケットボール、バドミントン、卓球		
10月20日(日)	9:00～ 競技開始 ※競技終了後、閉会式(各競技会場にて)	
	13:00 全競技日程終了予定	

8. 参加資格

- (1) 各競技の全国大会参加資格に準ずる。
- (2) 北信越高等学校定時制・通信制課程の在學生で、年齢・学年は問わない。
- (3) 一人1競技とし、チームの編成は、県または学校単位とする。
- (4) 全国高等学校総合体育大会（予選会を含む）出場者は、同年度本大会に出場できない。
- (5) 同一年生の出場は同一競技4回までとする。

9. 競技別競技方法

- (1) 団体戦は各競技 各県1代表とする。
- (2) 団体戦は原則としてリーグ戦とする。但し、野球・バスケットボール・サッカーについては参加チームが4～5チームの場合トーナメント戦とし、順位決定戦を行うが、3チームの場合はリーグ戦とする。尚、2チームの場合原則として2日目に試合を行う。
- (3) 個人戦はベスト16によるトーナメント戦とする。但し、競技種目や参加人数によってはリーグ戦または他の方式をとることがある。
- (4) 各競技において必ず順位を決定する。
団体戦（リーグ戦）では
 - ① 勝ち点の多いチームを上位とする。
(勝ち：2点、引き分け：1点、負け：0点)
 - ② 勝ち点と同じ場合、直接対戦の勝利チームを上位とする。
 - ③ ①②で決定しない場合、得失点（ゲーム・セット）差の多いチームを上位とする。
 - ④ 上記の①～③で決定しない場合は、各競技専門部で協議し決定する

【軟式野球】

- (1) 競技規則は当該年度公認野球規則による。大会特別規定は全日本軟式野球連盟大会規則による。
- (2) 本大会は7回戦とし、5回終了以降で7点以上の差のある場合はコールドゲームとする。7回終了時点で同点の場合は、最後に出場している9人のジャンケンで決定する。
但し5回終了以降で1時間30分を超えている場合は新しいイニングに入らない。
- (3) 出場チーム数は、各県1チームとし、トーナメント戦とする。
- (4) 登録人数は1チーム、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手18名までとする（女子の出場も認める）。
- (5) 試合球は「TOPボール」M号を使用する。
- (6) 雨天時の競技実施の可否については、主催県競技役員で協議の上決定し、速やかに各県監督に連絡する。
- (7) 競技方法は出場チーム数により下記の通り行う。
 - ① 5チームの場合、1日目に1回戦1試合・準決勝2試合を行う。
2日目に決勝・4～5位決定戦を行う。
 - ② 4チームの場合、1日目は準決勝2試合を行い、2日目に決勝、3～4位決定戦を行う。
 - ③ 3チームの場合、リーグ戦とし、1日目は1試合、2日目は2試合行う。

【バスケットボール】

- (1) 競技規則は現行の（公財）日本バスケットボール協会競技規則による。（全国大会に準ずる）
但し、競技時間は各10分間のクォーター制とし、第1と第2クォーター、第3と第4クォーターの間に各2分間、第2と第3クォーターの間に10分間の休憩を入れる。
(10-2分休-10・10分休-10-2分休-10)
- (2) 出場チーム数は、各県男女、各1チームとし、トーナメント戦とする。また、順位決定戦を行う。
- (3) 登録人数は1チーム、引率責任者1名、監督（H. コーチ）1名、コーチ（A. コーチ）1名、マネージャー1名、選手15名までとする。

- (4) ユニフォームは規則に定められたものとする。濃淡2色を用意し、共に番号は0、00及び1～99を用いる。
- (5) 組み合わせ左側または番号の若いチームがオフィシャル席に向かって右側のベンチとし、原則として淡色のユニフォームを着用する。
- (6) 試合球は検定球とする。主催者で準備する。
- (7) 競技方法は出場チーム数により下記の通り行う。
 - ①5チームの場合、トーナメント戦とする。1日目は1回戦・準決勝を行う。
2日目に、決勝・3位決定戦を行う。(但し、1回戦敗者が、準決勝敗者に勝った場合は、3位決定戦は前日の結果を基に省略する。)
 - ②4チームの場合、トーナメント戦とする。1日目は準決勝2試合を行う。
2日目に決勝・3位決定戦と決勝を行う。
 - ③3チームの場合、リーグ戦とし、1日目は2試合、2日目に1試合行う。

【バレーボール】

- (1) 競技規則は当該年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。ただし、ネットの高さは男子2m35cm、女子2m15cmとする。全試合3セットマッチで行う。
- (2) 出場チーム数は、各県男女各1チームとし、出場チームが4チーム以上の場合トーナメント戦、3チーム以下の場合リーグ戦とする。
- (3) 登録人数は1チーム、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手14名までとする。(12名の場合：リベロ0～2名、13名以上の場合：リベロ2名を入れること。)
- (4) ユニフォーム、監督章、コーチ章、キャプテン章、マネージャー章は規則に定めるものを着用する。ユニフォームは統一し、1～14の一連番号とする。
- (5) 試合が連続する場合には、15分以上20分以内の休憩をとる。
- (6) 試合球は検定球とする。主催者で準備する。
使用球は、今年度の全国高校定時制通信制バレーボール大会に準ずる。
<令和元年度> 男子モルテン (V5M5000) 女子ミカサ (MVA300)

【バドミントン】

- (1) 競技規則は現行の（公財）日本バドミントン協会競技規則ならびに同大会運営規程による。
- (2) 団体戦出場チーム数は、各県男女混合1チームとし、リーグ戦とする。また、試合は必ず最終試合まで行うものとする。なお、団体戦に出場する選手および補欠は、個人戦へのエントリーはできない。
- (3) 団体戦登録人数は1チーム、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、男子選手4名と補欠2名、女子選手4名と補欠2名で編成する。団体戦は男子単、女子単、男子複、女子複、男女混合複の5試合で実施する。同一の試合において単・複の選手の重複はできないが、試合毎の単、複、混合複の変更は、オーダー提出によって認められる。人数が満たない場合の棄権については、**オーダー表配布時に選手の不足数および棄権する試合を本部に申告する。その結果は対戦チームに通知される。**どの試合を棄権とするかは各チームの裁量に任せられる。
- (4) 選手8名未満のチーム同士の対戦において、勝ち試合数が2対2の場合は引き分けとする。
- (5) 個人戦はシングルスとダブルスをトーナメント戦で実施する。各県男女とも単2名、複2組までエントリーできる。なお、個人戦に出場する選手は、団体戦へのエントリーはできない。
- (6) 得点は団体戦、個人戦いずれも21点3ゲームマッチで行う。但し得点が20点オールになった場合、2点差の得点をしたサイド、更に24点オールになった場合、25点目の得点をしたサイドがそのゲームの勝者となる。
- (7) 選手の服装は（公財）日本バドミントン協会審査合格品（上下）を着用しなければならない。合格品を調達できない場合は、上着については、白無地のポロシャツを認める。選手は背中にゼッケンをつける。(A4程度の白布に、黒または濃紺で県名、県名・学校名、学校名・氏名のいずれかを記入)
- (8) 使用シャトルは（公財）日本バドミントン協会検定合格球とする。主催者が準備する。
- (9) 今大会は2日間を通して、団体戦と男女個人戦を行う。

細 則 ・進行上の都合により、団体戦は並行試合を行うが連続試合になる場合は、10分間以上の休憩時間を与える。但し、この規定は当該選手個人の連続試合に限る。

個人戦で試合が連続する場合は、10分間以上の休憩時間を与える。

- (10) 団体戦（男子単、女子単、男子複、女子複、男女混合複）の各試合、および個人戦において1勝した場合に勝利ポイント1点を与える。（負けは0点）
- (11) 団体戦（リーグ戦）での順位の決定については
 - ① 勝ち点数の合計が多いチームをより上位とする。
 - ② 勝ち点数の合計が2チーム以上同数の場合は、取得マッチ（試合）率の高いチームを上位とする。
 - ③ さらに同数の場合には、取得ゲーム数の高いチームを上位とする。
 - ④ さらに同数の場合は、全試合の取得ポイント総数と喪失ポイント総数を集計し、取得ポイント率が高いチームを上位とする。
 - ⑤ 前項でも決まらない場合は、大会本部が半断する。

【卓 球】

- (1) 競技規則は現行の（公財）日本卓球協会競技規則による。（タイムアウト制は適用しない）
- (2) 団体戦の出場チーム数は、男女各1チームとし、リーグ戦とする。試合は、1試合目から勝敗が決した後の試合は行わない。
- (3) 団体戦登録人数は1チーム、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手は4～8名とする。試合はダブルスを中央に置く4S1D（S1・S2・D1・S3・S4）で行う。単・複の重複はできない。また、人数が6名に満たない場合、単の最終試合より棄権とする。
 - ① 5名での出場の場合単4を棄権とする。
 - ② 4名での出場の場合単3・単4を棄権とする。また、棄権はオーダー提出前に大会本部と対戦チームに報告され承認される。
- (4) 選手6名未満のチーム同士の対戦において、得試合数が2対2の場合、引き分けとする。
- (5) 団体戦（リーグ戦）の順位は以下の通り決定する。
 - ① 勝ち点の多いチームを上位とする。
 - ② 勝ち点と同じ場合
 - ア 2チームの場合は、直接対戦の勝ちチームを上位とする。
 - イ 3チーム以上が同じ場合は、対象チームの対戦結果を抜き出して、勝マッチ数/負マッチ数の数値が大きいチームを上位とする。
 - ③ ②で決定しない場合は、勝ゲーム数/負ゲーム数の数値が大きいチームを上位とする。
 - ④ ③で決定しない場合は、総得点/総失点の数値が大きいチームを上位とする。
 - ⑤ 引き分けの扱いについては、監督者会議で競技委員長から詳細を提示する。
- (5) 個人戦は各県男女とも3名以内（開催県は4名以内）のエントリーとする。選手は団体戦と兼ねることができる。
- (6) 試合球は硬球プラスチックボール（白球で日本卓球連盟公認ニッタク）主催者が準備する。
- (7) 団体戦・個人戦とも11点3ゲーム先取法とする。
- (8) 服装は競技用の半袖シャツ、短パンであること。選手は背面にゼッケンをつけること。（A4程度の白布に上段に県名、中段に選手名、下段に学校名を記入する。）
（ゼッケンのサイズはB5版を基準とし、白地の布に文字は黒を使用すること。上段に県名、中段に選手名、下段に学校名を記入する。）
- (9) ペンホルダータイプのラケットは黒ラバーの場合は裏面を赤に、赤ラバーの場合は裏面を黒に塗らなければ使用できない。
- (10) 1日目に個人戦と団体戦の2～3対戦を行う。2日目に残りの団体戦を行う。

【ソフトテニス】

- (1) 競技規則は（公財）日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックによる。

- (2) 団体戦出場チーム数は、各県男女各1チームとし、リーグ戦とする。
- (3) 団体戦登録人数は1チーム、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手4～10名で編成する。試合は3組対抗とする。人数が満たない場合、3組目を棄権とする
- (4) 個人戦は各県男女とも3組以内（開催県は4組以内）のエントリーとする。選手は団体戦と兼ねることができる。
- (5) シューズはテニスシューズを使用すること。服装は連盟公認のものに準ずる。
- (6) 選手は背面にゼッケンをつける。（A4程度の白布に、黒または濃紺で学校名・県名を記入）
- (7) 試合球は公認（アカエム）とする。主催者が準備する。
- (8) 1日目に団体戦、2日目に団体戦と個人戦を行う。
- (9) 雨天時は、競技委員長・県代表男女監督・審判長等の協議の上、内容を決定する。

【柔 道】

- (1) 競技規則は国際柔道連盟試合審判規定並びに全国高等学校体育連盟柔道専門部申し合わせ事項による。
- (2) 団体試合
 - 1) 試合時間は3分間とし、勝敗の決定は、「一本」「技あり」「僅差」*1とし、得点差が無くかつ「指導」の差が1以内の場合は「引き分け」とする。
 - *1「僅差」とは、双方の選手間に技による評価（技あり・有効）がない、又は同等の場合、「指導」差が2以上あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝とする。勝敗の決定方法は以下の通りとする。
 - (ア) 勝ち抜き試合とする。
 - (イ) チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。
 - (ウ) (イ) で得点差が無い場合は、時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア方式）により勝敗を決定する。
- (3) 個人試合
 - 1) 試合時間は3分間とし、勝敗の決定基準は「一本」「技あり」とする。
 - 2) 得点差が無い場合は、時間無制限の延長戦によって勝敗を決する。
- (4) 団体試合は各県男女1チームの出場とする。参加チームが5チームの場合はトーナメント戦、3～4チームの場合はリーグ戦とする。
- (5) 団体登録人数は引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手は正選手5名・女子3名、補欠選手は男女とも2名とする。選手変更は補欠選手との交代のみとし、試合ごとにオーダーの変更を認める。ただし、男女ともに2名以上から参加できる。
- (6) 男子個人試合は体重別3階級で行い、各県各階級4名以内のエントリーとする。各階級は65kg級（65kg以下）、75kg級（65kg超から75kg以下）、75kg超級（75kg超）とする。
女子個人試合は無差別級で行い、各県4名以内のエントリーとする。（エントリーが多い場合には階級設定をすることがある）
- (7) 計量は、1日目13：00～13：15の間、競技会場にて行う。計量失格者は個人試合に出場できない。
- (8) 1日目に団体試合を行い、2日目に個人試合を行う。

【剣 道】

- (1) 競技規則は（一財）全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」・「試合審判規則並びに細則」及び、「全国高等学校体育連盟剣道専門部申し合わせ事項」による。
- (2) 団体試合は、4分、三本勝負とし、時間内に勝負の決しない場合は引き分けとする。尚、リーグにおけるチームの引き分けの際はその都度勝負を決定せず、そのリーグ終了後下記の順で順位を決める。
 - (イ) チームの勝ち点（勝2点・引き分け1点）
 - (ロ) 勝者数。
 - (ハ) 取得本数。
 イ、ロ、ハの結果勝負が決定しない場合は、代表者戦（補欠は含まない）にて決する。試合時間は4分間一本勝負とし、時間内に勝敗が決しない場合には時間制限なしで、延長戦を勝負が決するまで継続する。
- (3) 団体試合は、各県男女混成1チームの出場とし、リーグ戦とする。

- (4) 団体登録人数は引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手は、男子正選手として、先鋒・中堅・大将3名補欠1名・女子正選手として次鋒・副将2名補欠1名とする。
- (5) 団体試合は、男女合わせて3名のみのチーム参加も可能とする。
男子3名の場合、先鋒・中堅・大将とする。
男子2名・女子1名では、男子を先鋒・大将、女子を副将とする。
男子1名・女子2名では、男子を大将、女子を次鋒・副将とする。
- (6) 個人試合参加人数は、各県男女各4名以内とする。
- (7) 個人試合は、男女とも4分間、三本勝負とし、勝負が決しない場合は、時間制限なしで、延長戦を勝負が決するまで継続する。
- (8) 竹刀の長さ・重さは規定通り（長さ117cm以内、重さ：男子480g以上・女子420g以上）とし、ビニールテープ等を用いて補強した竹刀の使用は禁止する。つばは、つば止め等を用い必ず固定すること。竹刀の先革先端部直径（先革を付けた状態）はその最小径が、男子26mm以上・女子25mm以上とする。竹刀の先端部（先革を付けない状態）はその最小径が20mm以上とする。先革には竹刀の先端部の寸法に適合するものを使用し、その長さは5cm以上とする。先ゴムには芯がなく、つぶれにくいものを使用する。
- (9) 竹刀の検量は、大会当日、試合会場にて14:00～14:30の間にいき、合格竹刀には検印を押す。検量不合格の竹刀は、試合終了まで本部預かりとする。
- (10) 前垂に名札を着用すること。
- (11) 個人試合は1日目、団体試合は2日目に行う。

【サッカー】

- (1) 競技規則は当該年度（公財）日本サッカー協会競技規則による。
- (2) 出場チーム数は、各県1チームとし、トーナメント戦とする。（3チームの場合のみリーグ戦）
- (3) 試合時間は前・後半合計60分（30-10-30）とする。時間内で勝敗が決定しない場合はPK方式により次回戦に進むチームを決定する。但し、決勝戦において時間内に勝敗が決定しない場合は20分（10-10）の延長を行い、なおも決定しない場合はPK方式により決定する。
- (4) 登録人数は、1チーム、引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手20名までとする（ただし、女子の出場も認める）。
- (5) 選手の交代については協会が定める「再交代」を採用する。
- (6) 試合球は検定球とする。主催者が準備する。
- (7) 選手は全員統一されたユニフォームを着用する。事前に登録されたものを原則とし、背番号の変更は監督者会議以降認めない。
正・副2着、異なる色のユニフォームを携行し審判によるユニフォームチェックに従うこと。但し、審判と類似色の上着を用いることはできない。
背番号は必ず登録された選手固有の番号をつけること。背番号は1から20の通し番号とする。縦縞や、横縞の上着には布地に背番号を縫いつけ、分かりやすくする。（胸番号も付けることがのぞましい）
- (8) 本大会期間中に、警告を2回受けた者は、次の1試合に出場することはできない。退場となった者は次の1試合に出場することができない。それ以降の処置については、大会の競技委員会で決定する。
- (9) 選手は自分自身あるいは他の選手に危険となるような用具やその他のもの（装身具を含む）を身につけてはならない
- (10) 競技方法は出場チームにより下記のとおりとする。
 - ① 5チームの場合、トーナメント戦とする。1日目は1回戦・準決勝を行う。
2日目に、3位決定戦と決勝を行う。
 - ② 4チームの場合、トーナメント戦とする。1日目は準決勝2試合を行う。
2日目に、3位決定戦と決勝を行う。
 - ③ 3チームの場合、リーグ戦とし、1日目は1試合、2日目に2試合行う。
 - ④ 2チームの場合、原則として2日目に行う。
* 1日目は、研修会（実技を含む）を行う。

10. 出場人員（登録人数）

競技	引率	監督	コーチ	Aコーチ	マネ	団体戦出場枠	個人戦出場枠	備考
軟式野球	※	1	1	1	1	18		男女
バスケットボール	※	1	1	1	1	15		男・女
バレーボール	※	1	1	1	1	14		男・女
バドミントン	※	1	1	1	1	男女各4～6	各県6名以内	男・女
卓球	※	1	1	1	1	4～8	各県3名以内	男・女
ソフトテニス	※	1	1	1	1	4～10	各県3組以内	男・女
柔道	※	1	1	1	1	男2～5補2 女2～3補2	男子各級4名以内 女子4名以内	男・女
剣道	※	1	1	1	1	男1～3補1 女0～2補1 男女で3名以上	男子4名以内 女子4名以内	男・女 混合
サッカー	※	1	1	1	1	20		男女

※県選抜で参加の場合、引率者の数は参加校の数となる

※選手以外のベンチ入りの人数は4名までとする。

11. 表彰

- (1) 団体戦は1・2位を表彰する。1位には優勝杯（持ちまわり）を授与する。賞状は北信越高体連会長（大・高体連マーク）北信越地区協議会会長（大）とする。
個人戦は、1位・2位・3位（3位決定戦は行わない）を表彰する。1位には優勝盾（贈呈）を授与する。賞状は北信越高体連・北信越地区協議会より3位入賞者に授与される。
- (2) 表彰は、競技別閉会式において行う。
- (3) 前年度の総合優勝県、団体優勝校（県）は優勝旗・優勝杯を返還する。返還時にレプリカを贈る。
- (4) 総合得点の最も高い県に総合優勝旗（持ちまわり）を授与する。
- (5) 競技の得点は以下のように行う。
 - ① 団体競技（軟式野球・バスケットボール・バレーボール・サッカー）
 - ・チーム数、トーナメント戦、リーグ戦の如何にかかわらず1勝に対して5点を与え、負けチームには2点を与える。（棄権等で試合がなかった場合（不戦勝）は点数を与えない）
 - ② 団体戦（バドミントン・卓球・ソフトテニス・柔道・剣道）
 - ・団体戦における各試合で1勝した場合、1点を与える。（不戦勝には点を与えない）
 - ③ 個人戦
 - ・参加人数にかかわらず1勝に対して1点を与える。（不戦勝には点を与えない）
 - ④ 順位点は採用しない。（各試合の1勝に対する得点のみを加算し総合優勝を決定する）

12. 負担金

各 県 50,000円 （各県事務局が大会事務局へ納入する。）

13. 参加料

- (1) 1,000円（1人） × 各県参加者数（選手、引率責任者、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャー）
県選抜の場合、自校の引率ではあるが上記スタッフに含まれない方も参加者としてカウントする。
各県事務局でまとめて大会事務局に納入する。（抽選会議にて徴収する。振り込みも可）
- (2) 8月23日（金）抽選会以降、出場の辞退・棄権等による参加料の返金を行わない。
- (3) 団体種目において、申込締切り以降抽選日当日までに選手を追加する場合、追加選手分の参加料は各県定通専門部事務局もしくは専門委員長を通し大会事務局に納入する。

14. 宿泊

- (1) 詳細については、別紙『宿泊要項』による。
- (2) 宿泊申込書 → (担 当 業 者) → 大会事務局
↓↑ 『配宿・調整』
申込責任者

15. 参加申し込み先について

- ①参加承諾書 → 各県事務局へ提出
各県事務局は①をまとめ、②参加申込書(団体・個人)を作成し、①②を合わせて令和元年 7月23日(火)までに下記申し込み先へ提出する。

16. 申し込み先 連絡先

〒921-8042 金沢市泉本町6丁目105番
石川県立金沢中央高等学校 内
石川県高等学校体育連盟定通部事務局
門間 昭彦 宛
Tel 076-243-2166 Fax 076-243-3573
a_mon77@m2.ishikawa-c.ed.jp

17. 組合せ抽選会

- (1) 期 日 令和元年 8月23日(金) 13:30～
- (2) 会 場 石川県立金沢中央高等学校

18. シード規定

- (1) 団体戦 ①本年度全国大会上位入賞県(1～3位)をシードとする。
②前年度1位の県をシードとする。
- (2) 個人戦 ①本年度全国大会入賞者(1～3位)の出場者をシードとする。(同一ペア)
②前年度1位の出場者をシードする。(同一ペア)
③各県1位をシードに入れる。
できるだけ同県がベスト4まで対戦しないようにする。
できるだけ1回戦で対戦県が重複しないようにする。

19. 選手の変更について

- (1) 抽選日以降、大会当日までに団体戦の選手の変更(追加・抹消・変更)は、各県定通部事務局もしくは専門委員長の承認を得た上で、所定の用紙に記入し、専門委員長会議および各競技監督者会議に提出すること。監督者会議において参加選手を確定し、その会議の中で報告をする。それ以降の変更は認めない。また、登録変更により登録人数が抽選日以降よりも増えた場合、増えた人数分の参加料は、各県専門委員長を通じて大会事務局に納めること。
- (2) 個人戦出場選手の変更は抽選会(令和元年 8月23日)までとする。それ以降は、原則として認めない。ただし、ソフトテニスのペアについては同一校の選手1名に限り認める。

20. 北信越高等学校定時制通信制総合体育大会における個人情報及び肖像権に関する取り扱い

- (1) 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い
① 大会プログラムに記載されます。
② 競技場内でアナウンスなどにより紹介されることがあります。
③ 競技会場内外の掲示板等に掲載されることがあります。
- (2) 競技結果(記録)等の取り扱い
① 認められた報道機関により、新聞・雑誌及びホームページ等で記載されることがあります。
② 大会プログラム記載の個人情報とともに専門部事務局が作成する大会報告書に掲載されます。
③ 新記録、優勝及び上位入賞結果(記録)等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

- (3) 肖像権に関する取り扱い
 - ① 認められた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・大会報告及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
 - ② この他、各県高等学校体育連盟定時制通信制部会の許可にもとづき、記念写真等が関係者に販売されることがあります。
- (4) 北信越高等学校体育連盟定時制通信制部会としての対応について
 - ① 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
 - ② 参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
 - ③ 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、各県高等学校体育連盟定時制通信制部会事務局までご連絡下さい。

21. その他

- (1) 引率責任者は、団体で単独校での参加の場合、校長の認める当該校の職員とし、県選抜チーム出場校および個人戦出場校は、校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。
- (2) 監督、コーチ等については、学校長の認めた指導者とする。
- (3) 要項に規定されていない事項については、代表者・監督会議で決定する。
- (4) 開会式は各競技の服装としシューズを着用すること。全国大会入賞者も同様とする。
- (5) 総合開会式に参加しない競技の優勝杯(旗)返還、レプリカ授与、全国大会上位入賞者表彰等は、当該競技の開会式においてこれを行う。
- (6) 各県とも高体連旗を持参のこと。(旗竿は当番県で準備する)
- (7) 競技中の疾病、傷害の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任について主催者は負わない。
- (8) 各競技の成績は、各県高体連定通部事務局に終了後速報を送付する。
- (9) 参加者全員に、記念品としてプログラムを贈る。
- (10) 競技時は、自分自身あるいは他の競技者に危険となるような用具やその他(装身具を含む)を身につけてはならない。また、入れ墨・タトゥ等は見えないように配慮すること。
- (11) 全競技終了目標時間を10月20日(日)午後1時とする。

総合開会式実施要項

1. 日 時 令和元年10月19日(土)
12:20~12:40 開会式リハーサル

【リハーサル参加者】
旗手・宣誓者・優勝杯返還者など動きの確認

- 12:45~12:55 選手・役員整列
12:55~ 来賓着席
13:00~13:20 総合開会式

2. 会 場 いしかわ総合スポーツセンター(サブアリーナ)

3. 式次第
- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 選手・役員着席 | 7. 名誉大会長挨拶 |
| 2. 開式通告 | 8. 祝辞 |
| 3. 開会宣言 | 9. 歓迎の言葉 |
| 4. 国歌斉唱 | 10. 選手宣誓 |
| 5. 優勝旗・優勝杯返還 | 11. 閉式通告 |
| 6. 開催県代表挨拶 | 12. 選手・役員退場 |

4. 参加者

- ・総合開会式に参加する競技は、以下の3競技とする。
バスケットボール バドミントン 卓球

5. 各県選手団入場について

- (1) 各県選手団は12:45までに、各県選手団席へ前から詰めて整列する。
前列より ①各県高体連旗、②副団長、③総監督・競技監督、
④優勝旗・優勝杯、⑤選手 が整列する。
(各県振興会会長および各県定通部長は正面席にお座り下さい。)

6. 優勝旗・優勝杯の返還

- ・各種目返還者は、呼名された順番に横一列に整列し、アナウンスの指示に従って一斉に返還する。

7. 選手宣誓

- ・各県選手団の旗手はアナウンスの指示により宣誓者を半円形に囲み、宣誓終了とともに速やかに自席へ戻る。

8. 注意事項

- (1) 優勝杯などのケースは、リハーサル開始までに本部席まで届けること。
(2) 貴重品の管理は、各団体で責任をもって管理すること。
(3) 当日持ち込んだゴミ類は各県で必ず持ち帰ること。(飲食禁止)

令和元年度 第67回北信越高等学校定時制通信制総合体育大会

競技別開会式実施要項

1. 日 時 令和元年10月19日(土)

種 目	監督会議	開会式(監督会議場所)	競技別開会式	競技開始
軟式野球	12:30	津幡運動公園野球場	13:00	13:30
バレーボール	12:30	金沢市営中央市民体育館	13:00	13:30
サッカー	13:30	安原スポーツ広場	14:00	15:00
ソフトテニス	12:30	西部緑地公園テニスコート	13:00	13:30
柔道	12:30	石川県立武道館	13:00	13:30
剣道	13:30	石川県立金沢中央高校	14:00	14:30

2. 会 場
- 軟式野球 (津幡運動公園野球場:津幡町竹橋ヲ)
 - バレーボール (金沢市営中央市民体育館:金沢市長町3-3-3)
 - サッカー (安原スポーツ広場:金沢市下安原町東1127)
 - ソフトテニス (西部緑地公園テニスコート:金沢市北塚町)
 - 柔道 (石川県立武道館:金沢市小坂町西8-3)
 - 剣道 (石川県立金沢中央高校:金沢市泉本町6-105)

3. 式次第
1. 選手・役員整列
 2. 開式通告
 3. 優勝旗・優勝杯返還
 4. 競技部長挨拶
 5. 競技上の注意
 6. 閉式通告
 7. 選手・役員退場

4. 参加者

・競技別開会式実施する競技は、以下の6競技とする。

軟式野球 バレーボール サッカー
ソフトテニス 柔道 剣道

5. 整 列

- (1) 予め各県指定された場所に整列する。
- (2) 各県の受賞者、優勝旗・優勝杯返還者は、各県選手団の前方に整列する。

6. 優勝旗・優勝杯の返還

・各種目返還者は、呼名された順番に横一列に整列し、アナウンスの指示に従って順番に返還する。

7. 注意事項

- (1) 優勝杯などのケースは、開会式前に本部席まで届けること。
- (2) 貴重品の管理は、各団体で責任をもって管理すること。
- (3) 当日持ち込んだゴミ類は各県で持ち帰ること。

軟式野球競技 細則・申し合わせ

- 1 試合中、登録者以外はダッグアウトに入ることはいできない。
- 2 顧問教員は平服で、マネージャーは制服またはジャージでダッグアウトに入ることができる。
- 3 部員数に応じて、ユニホームを着用した引率責任者、監督、コーチ、A・コーチ、マネージャーは試合中、グラウンドに入ることができる。(バットボーイ、投球練習時のキャッチャーなど)
ただし、監督会議で了承を得ること。
- 4 判定に対する抗議は一切認められない。ルールへの適応上の質疑に関しては主将または当該選手のうちどちらか1名に限り可能である。
- 5 全試合、次の場合はコールドゲームとする。
 - (1) 降雨その他の理由により、試合の続行が不可能であると審判員が判断し試合の打ち切りを命じた場合。
 - ア 両チームが5回の攻撃を均等に完了している場合は、両チームが公平に攻撃を終了した時点で得点の多いチームを勝ちとする。
 - イ 先攻チームの5回の攻撃が終わった時点で得点より、後攻チームの4回までの得点が多い場合は後攻チームの勝ち。
 - ウ 後攻チームの5回の攻撃中に、後攻チームの得点先攻チームの5回までの得点を上回っている場合は後攻チームの勝ち。
 - (2) 5回終了時点で7点以上の得点差がある場合。先攻チームの5回の攻撃終了時に、先攻チームの5回までの得点より後攻チームの4回までの得点が7点以上上回っている場合。
- 6 シートノックは、前の試合終了後、後攻チームより直ちに始める。時間は7分間とする。ただし、大会運営上、その時間の短縮やシートノックを取りやめる場合もある。
- 7 ユニホーム、スパイク、帽子等は正しく着用し、腕時計、ピアス、ネックレスなど装飾品は身につけないこと。打者および走者はヘルメットを着用すること。
- 8 捕手は守備中、防護用ヘルメット、マスク、レガース、プロテクター、スロートガードを着用すること。捕手は守備用具の他、急所カップを身につけること。
- 9 試合に使用する用具等は安全基準に適合したものであること。試合前にヘルメット、バット等、審判員による点検をおこなう。
- 10 マスコットバット、素振り用バットリングは、ベンチ内に持ち込まないこと。
- 11 メンバー表を交換した後、選手の一時的な交代は認められない。ただし試合中の選手に事故等が起き、治療等のために一時走者を変えないと試合が続行できないと審判員が認めた場合、臨時代走を適用できる。この場合代走者は、試合に出場している選手に限られ、現在の打者の前者にさかのぼる。ただし、投手および捕手は省いてよい。
- 12 試合進行の促進に協力すること、攻守交替時には駆け足で行い、次打者はネクストバッターズサークルに必ず入ること。
- 13 スポーツマンとしてふさわしくない行為と審判員が判断した場合、退場を含め審判団で対応を協議するものとする。
- 14 ベースコーチもヘルメットを着用すること。
- 15 1日目が雨天の場合は2日目に、1回戦と準決勝2試合の計3試合を行う。
(5チームの場合は) 順位 1位 2チーム 3位 1チーム 4位 2チーム
- 16 2日目が雨天の場合は1日目の結果をもとに順位をつける。
(5チームの場合は) 順位 1位 3チーム 4位 2チーム

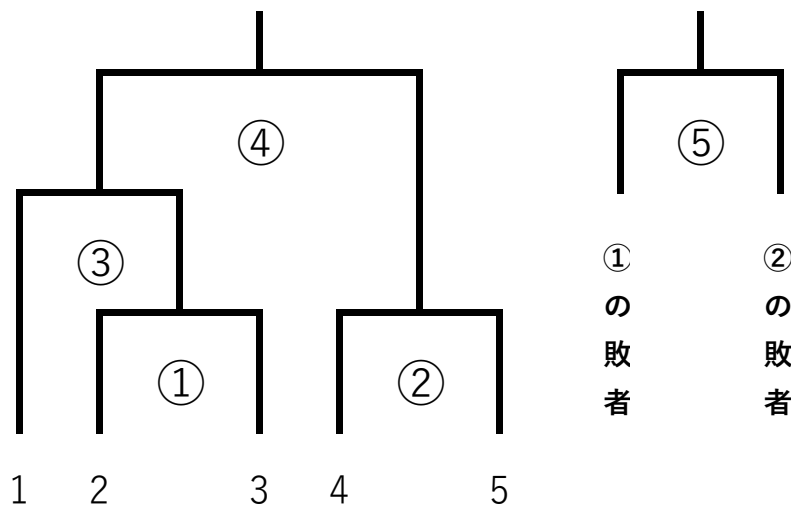
17 トーナメントについて

5チームの場合、石川県代表が1に入り、残りを抽選で決める。

4チームの場合、抽選で決める。

3チームの場合、リーグ戦とする。

〈5チームの場合〉



石
川
県

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援は、節度をもって行うこと。
- 3 飲食した際は、ゴミは必ず持ち帰ること。喫煙は必ず指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 4 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行い、その後は各自で処置を行うこと。
- 5 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 6 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 7 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。

バスケットボール競技 細則・申し合わせ

【細則・申し合わせ】

- 1 ユニフォームについて濃・淡2色を用意する。原則として、組合せ番号の若いチームが淡色のユニフォームを着用する。ただし、決勝戦については、勝ち上がったチームの状況により、この限りではないものとする。
(当該チーム間で話し合いをし、大会本部にて了承を得ること)
- 2 ベンチ入りできるものについて、参加申込みに記載登録されている、監督(H. コーチ)・コーチ(A コーチ)・引率責任者・マネージャー、各1名、選手15名以内のみベンチ入りを認める。
- 3 タイムアウトの請求は、試合開始前にサインをおこなった監督(H. コーチ)またはコーチ(A コーチ)に限る。ゲーム中は監督(H. コーチ) またはコーチ(A コーチ) のうちいずれか1名だけが、エリア内で立ち続けていることが認められている。

- 4 リーグ戦の順位決定方法については、以下の通りとする。
 - (1) 勝ち点の多いチームを上位とする。
 - (2) 勝ち点と同じ場合、ゴールアヴェレージ(得点/失点)を用いて順位を決定する。
 - (3) (1) (2) で決定しない場合、総得点の多いチームを上位とする。
 - (4) (1) ~ (3) で決定しない場合は、競技部専門部の協議の決定とする。
- 5 前の試合が遅れた場合は、試合終了10分後に次の試合を開始する。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援は節度をもって行うこと。(鳴り物は禁止)
- 3 競技用フロアでの飲食は禁止。喫煙も厳禁とする。
- 4 館内では、内履き(競技用を含む)着用を厳守すること。
- 5 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行いますが、その後は各自で処置してください。
- 6 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 7 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 8 施設の利用に関して、またマナーやルールを厳守すること。
- 9 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。

バレーボール競技 【細則・申し合わせ】

- 1 リーグ戦の場合、勝敗の決定の仕方について勝率が同率になった場合、次の順で優位とする。
 - (1) 得失セット数差で、数の大きいチームを優位とする。
 - (2) 得失点数差で、数の大きいチームを優位とする。
 - (3) 1, 2とも同数の場合、当該同士の勝敗を優位とする。
- 2 試合の時間は、設定しない。追いつみで行う。
- 3 全試合終了後、男女合同で閉会式を行う。
- 4 試合前の公式練習については、審判の指示に従って行う。
(1セット目サーブ権を得たチームから。両チーム合意の上で一緒にすることも可能)
- 5 ユニフォームについて、リベロプレイヤーは他のプレイヤーとは色の異なるユニフォーム又は、ヴィブスも着用可とする。
- 6 タイムアウトについては、監督またはゲームキャプテンがハンドシグナルで要求する。
- 7 選手がアタックライン延長線の内側に入ると自動的に選手交代のシグナルとなる。(クイックサブスティテューション)
- 8 遅延行為や不法行為については、ルールに則り罰則を与えるものとする。
- 9 ベンチスタッフにおいても規定のマークを身につけ、ふさわしい服装でベンチ入りする。
- 10 各チーム、コートワイピングを準備する。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用する。
- 2 応援は、節度をもって行うこと。（鳴り物は禁止）
- 3 フロアには、内履き（競技用を含む）での入場を厳守すること。
- 4 競技用フロアでの飲食は禁止。喫煙は必ず館外の指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 5 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行いますが、その後は各自で処置を行う。
- 6 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 7 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 8 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 9 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。

バドミントン競技 細則・申し合わせ

- 1 進行上の都合により、団体戦は並行試合を行う。団体戦については、勝敗が決定しても5試合すべて行う。ただし、2日目の終了時刻が大幅に遅れることが予想される場合に限り、試合終了時刻を設定しそれ以降のゲームは行わない。（試合途中の場合は、その時点での得点をもとに勝敗を決する。）
- 2 団体戦を大会メインとして位置付ける。したがって、団体戦が不参加にならないよう補欠は2名まで認める。ただしその県の事情で、団体戦の参加枠（4名）ぎりぎりではしか出場できない場合で、1日目あるいは2日目に事故や病気等で参加できなくなった場合に限り、個人戦の選手を団体戦メンバーとして再編成できるものとする。この場合、本部にその旨を報告しなければならない。
- 3 個人戦から団体戦へ変更するにあたり、すでに個人戦で負けている選手はもちろんだが、勝ちあがっている選手の場合は、それ以降の試合は棄権として扱う。（対戦相手にはポイントは入らない。）
- 4 オーダー用紙は、朝の第一試合は開始予定時刻30分前までに提出し、本部前にて交換する。定刻までにオーダー用紙の提出が無い場合は棄権とみなす。
- 5 第二試合以降は、放送にて時刻を指定し本部前にて交換する。なお、オーダー用紙は複写式を使用する。
- 6 団体戦のオーダーについて、人数が満たせない場合（男女のどちらかが3名以下となった場合）については、シングルス、ダブルス、混合ダブルスいずれかを棄権とし、オーダー表配布時に大会本部と対戦チームに申告する。
- 7 試合進行の状況により、試合開始時刻及びコートを変更することがあるので、放送でのコールに注意すること。
- 8 コールを3回されてもコートに入らない場合には、棄権とみなす。
- 9 各マッチ（試合）のインターバルは次のとおりとする。
 - （1）ゲーム間のインターバルは120秒とする。各ゲームの11点で60秒のインターバルを取ることができる。
 - （2）進行上、連続試合になる場合は、10分間の休憩時間を与える。（但し、この規定は当該選手個人の連続試合に限る）
- 10 コーチングについては、インターバル中に監督やコーチ（またはその代替者）が選手のもとで行うこと。
- 11 試合中の水分補給は原則インターバルの時間ならびに主審が許可したときとする。容器はペットボトルなどの倒れてもこぼれないものを使用し、主審横の指定場所に置くこと。
- 12 主審が認めた以外のタイムは一切認めない。

- 13 次のような違反行為に対しては、厳正に対処する。（警告・フォルト・失格等）
 - (1) 体力や息切れの回復等の遅延に関する行為。
 - (2) インターバル以外の指示や助言、主審の許可なしにコートを離れる行為。
 - (3) 故意にシャトルに手を加えたり、破損したりする行為。
 - (4) 審判員や観客に対し、横柄な振り舞いや下品で無礼な態度や行為。過度の抗議など。
 - (5) ラケットや身体でネット等のコート、施設を叩く、不適切な声や叫び声で審判や相手選手への威圧的、不快な態度。
- 14 ベンチ入りできる者は、団体戦については登録されたメンバーのみとする。
- 15 ケガなどで試合の続行が不可能なとき、事故タイムについて次の事項を参考に判断するものとする。
☆テーピング処置などは外傷がはっきりわかるもので、主審に申し出ればコート内で5分以内の処置をみとめる。2回目以降については試合続行不可能とみなす。
- 16 今大会の使用シャトルは、（公財）日本バドミントン協会検定合格球とする。主催者が準備する。
- 17 試合フロアには、登録された選手、監督、コーチ、マネージャーなど以外は出入りできない。
- 18 審判員は、主審1名、線審2名で行う。審判員は補助員が行う。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援については、2階観覧席から行う。また、節度をもって行うこと。（鳴り物は禁止）
- 3 競技用フロアでの飲食は禁止。喫煙は必ず指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 4 競技フロアは内履き（競技用を含む）着用を厳守すること。入場口で必ず履き替えること。
- 5 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行い、その後は各自で処置すること。
- 6 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 7 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 8 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 9 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。

卓球競技 細則・申し合わせ

- 1 個人戦は、各県3名（主催県4名）のベスト16方式により行う。3位決定戦は行わない。
- 2 団体戦については、2～3組並行試合とする。1試合目に限り勝敗が決した後もすべての試合を行う。
- 3 団体戦の順位決定の仕方について、本大会要項に従うが、卓球競技は引き分けがあるため、細かい決定方法については、監督会議にて競技委員長から提示するものとする。
- 4 個人戦のアドバイザーは、1人までとする。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援について、節度をもって行うこと。（鳴り物は禁止）
- 3 競技用フロアでの飲食は禁止。喫煙は必ず館外の指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 4 体育館内は、内履き（競技用を含む）着用を厳守すること。
- 5 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行い、その後は各自で処置を行うこと。

- 6 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 7 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 8 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。

ソフトテニス競技 細則・申し合わせ

- 1 競技開始後、雨が降り出した場合においても競技に支障のない限り続行する。
- 2 試合はすべて、7ゲームマッチとする。
- 3 コート割りおよび進行については、別表の通りとするが、天候その他やむを得ない事情により変更する場合がある。
- 4 マッチについて
 - (1) マッチ開始前の練習は1分以内とする。ただし、進行上省略することがある。
 - (2) マッチ中は連続的にプレーすること。プレーの進行に支障をきたすようなパートナーとの過度な打ち合わせをしない。
 - (3) マッチ中、過度なかけ声や、相手を不快にさせる発声をしないこと。
 - (4) 審判に対する異議申し立てはできないものとする。
 - (5) マッチ中のコーチは、サイドのチェンジおよびファイナルゲームに入る前のインターバルの1分以内において認められる。
- 5 コーチする者は、団体戦は監督、個人戦はベンチ入り指導者のみであり、必ず所定のベンチにてコーチをすること。
- 6 団体戦について
 - (1) 初戦のオーダーは、1日目開会式前に提出する。以後のオーダーは、試合終了後速やかに提出する。
 - (2) リーグ戦のため、対戦はすべて3試合とも行う。
 - (3) 5名以下のチームについては、3番手を棄権（0-4で相手の勝ち）とし、その試合は行わない。
 - (4) 5名以下のチーム同士の対戦（2ペア同士）する場合は、必ず勝敗が決まるよう代表戦を実施する。**代表戦は「10ポイント制ファイナル」とする。**その際にはオーダー提出時に3番目のペアをあらかじめオーダーに明記して行う。（その3番目のペアはチームのメンバーでどのようなペアを作ってもよい。）
 - (5) 勝ち点と同じ場合の順位決定の仕方については次の通りとする。
 - ア 2者が同率の場合は、対戦の勝者を優位とする。
 - イ 3人以上が同率の場合には、以下の順とする。
 - a 得マッチ数から失マッチ数を減じた値が大きいチームを優位とする。
 - b 合計得ゲーム数から合計失ゲームを減じた値の大きいチームを優位とする。
 - c 合計得ポイントから合計失ポイントを減じた値が大きいチームを優位とする。
- 7 個人戦については3位決定戦を行わない。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援は、節度をもって行うこと。（鳴り物は禁止）
- 3 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行いますが、その後は各自で処置すること。
- 4 喫煙は、必ずコート外の指定場所で行い、吸殻は各自で持ち帰ること。
- 5 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 6 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 7 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 8 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。

柔道競技 細則・申し合わせ

1 団体試合について

(1) リーグ戦の順位は、4勝、3勝1分、3勝1敗、2勝2分、2勝1敗1分、2勝2敗、1勝3分、1勝1敗2分、1勝2敗1分、1勝3敗、4分、3分1敗、2分2敗、1分3敗、4敗の順で決める。

(2) 順位が同等の場合、次の順で優位を決める。

- ア 勝数の多い方を上位とする。
- イ 「一本」勝ちの多い方を上位とする。
- ウ 「技あり」優勢勝ちの多い方を上位とする。
- エ 負け数の少ない方を上位とする。

(3) (2) が全く同じ場合は、優勝を決める時のみ代表戦を行い、その他は抽選とする。

2 脳震盪及び皮膚真菌症の対応について。

選手および指導者は下記事項を遵守すること。

(1) 脳震盪対応について

- ア 大会前1か月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
- イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、脳神経外科の精査を受けること。)
- ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- エ 当該選手の指導者は、大会事務局および(公財)全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(2) 皮膚真菌症(トングランス感染症)について

発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。なお選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合、大会への出場ができない場合がある。

【その他注意事項】

- 1 駐車場については、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 3 競技用フロアでの飲食は禁止。喫煙は必ず館外の指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 4 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 5 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 6 選手同士、競技役員・審判員・補助員等に対し礼節を持って接すること。
- 7 応援については、節度をもって行うこと。
- 8 競技中の疾病、傷害については、応急処置のみ主催者側で行うが、その後は各自で対処すること。

剣道競技 細則・申し合わせ

- 1 選手は気品ある態度で全力をあげて試合をする。
- 2 竹刀は完全なものを使用する。着色を施したり、テープを巻いたりした竹刀は使用してはならない。
- 3 選手の服装は紺(黒)または白の剣道着・袴とする。なお刺繍等により華美にならないこと。
- 4 試合者の目印に、校名などを大きく目立つように入れてはいけない。目印を着ける時は、折り返した二枚の長さが揃うように着ける。
- 5 滑り止めのための雑巾等は使用しない。
- 6 試合場に入れるものは、監督・選手だけで、他のものの入場は厳禁とする。
- 7 試合はすべて一刀(一本の竹刀)にて行うものとする。二刀にての試合は認めない。

8 鏢競り合いについて

- (1) 試合者は、正しい鏢競り合いの攻防から10秒以内に技を出すか、または、相互に間合いを切って鏢競り合いを解消しなければならない。

正しい鏢競り合いとして以下に示す内容を審判の判定基準とし、この基準からはずれる場合は不当な鏢競り合いの反則とする。

- ① 手元が上がった鏢競り合いにならないようにし、手元を下げて相互に鏢元と鏢元を合わせて竹刀を交差させる。(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とする。)
- ② 鏢元で竹刀の表鏢を交差させる。(竹刀は右傾前方に傾ける。)
- ③ 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鏢側での交差に直さなければならない。(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏢競り合いをする者は反則の対象となる。)
- ④ 鏢競り合いは、相互に鏢元で圧力をかけ合っている状態とする。(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となる。)

- (2) 審判員は、不当な鏢競り合いの「反則」を厳密に見極めるとともに、正しい鏢競り合いの攻防が10秒程度続いた場合、時間空費の「反則」または「分かれ」を見極める。

ただし、安易に「分かれ」をかけない。

9 不正用具を使用した場合の罰則は以下のとおりとする。(試合規則17条・19条)

- (1) 不正用具使用者を負けとし相手に2本を与える。なお両者同時になしたときは、両者ともに負けとする。
- (2) 前号の処置は、不正用具使用発見以前の試合までさかのぼらない。
- (3) 不正用具使用が発見された者は、その後試合を継続することができない。
- (4) 不正用具使用者は、今大会において以後の試合に出場できない。
- (5) リーグ戦にあっては、不正用具使用者の総ての試合を負けとする。

- 10 選手が負傷した場合は、救護員及び監督の意見を聞いた上、審判員が審判長の了解を得て試合継続の可否について決定する。試合の継続が決定した後、原則として5分以内に試合を再開する。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援については、観覧席から行う。また、節度をもって行うこと。
- 3 競技用フロアでの飲食は禁止。喫煙は必ず館外の指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 4 入場口で必ず履き替えること。
- 5 競技中の疾病、傷害については応急手当のみ主催者側で行うが、その後は各自で処置を行う。
- 6 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 7 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 8 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 9 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。

サッカー競技 細則・申し合わせ

- 1 本大会ではテクニカルエリアを設ける。試合前に特定された役員の中から、その都度1人だけがそのエリアにて戦術的指示を伝えることができる。テクニカルエリア使用にあたっては、責任あるかつ紳士的態度

に留意すること。

- 2 反スポーツ的プレーを助長するような言動をベンチで行ったり、審判の判定に対して不服を申し立てたり誹謗したりすることは厳に慎むようご指導ください。また、ベンチからの大声でのコーチングも慎むこと。
- 3 チームベンチは、大会プログラム左側に記載されているチームが、会場本部からグラウンドに向かって左側のベンチとする。
- 4 試合終了後、互いのベンチに向いての挨拶は原則しないものとする。終了後は、審判・役員、選手同士の握手を持って礼にかえることを奨励する。
- 5 ユニフォームの決定について
 - (1) 各試合開始45分前に競技場本部にて行う代表ミーティングで、その試合において着用するユニフォームを主審が決める。(シャツ、ショーツ、ストッキングについても同様の取り扱いとする)
 - (2) サーマル・アンダー・ショーツを使用する場合、原則チームが使用するショーツの主たる色と同色であること。
- 6 選手の交代について
今大会は再交代を認める。選手交代をするときには、監督の指示のもと、第4の審判員を通じて、さらに主審の許可を得てから交代できるものとする。アウトオブプレーのとき、ハーフウェイライン指定の場所において、退場する者がアウトしてから、交代するものが入場する。
- 7 競技中の負傷者について
原則として、負傷者の治療はフィールド外にて行う。搬出には担架を用いる。その際は主審の入場許可および指示に必ず従うこと。
- 8 競技中の水分補給について
飲み物は、タッチラインから1m以上離れた場所ならびにゴール後方に置くことができる。
- 9 警告・退場について
 - (1) 本大会において退場を命ぜられた選手は、次の1試合に出場することができないものとする。それ以降の処置については大会の規律・フェアプレー委員会にて決定する。
 - (2) 同じく、警告を2回受けた選手は、次の1試合に出場することができないものとする。
主審の承認を得ずにフィールドに入るまたは復帰する競技者、また意図的にフィールドを離れる競技者には警告を与える。
 - (3) 得点を喜ぶためにジャージを脱いだ競技者は、反スポーツ行為で警告される。ジャージを脱ぐ行為とは、完全に脱ぎ去る、頭越しにジャージを脱いで首にかける、ジャージを捲り上げて頭に被る、ことが含まれる。
 - (4) 退場を命ぜられた選手は、次の試合中、大会で指定された場所以外にはいかなる状況においても入ることができない。
- 10 装飾品について
 - (1) 選手の安全性を確保するため、装飾品を外し、ポイントチェックを受けさせる。
 - (2) 試合中、装飾品を取り外すためにフィールド外に出るよう命ぜられた競技者は次のアウトオブプレーまでプレーに加わることができない。
※競技者＝フィールド内でプレー中の選手 選手＝大会参加登録された者。

11 試合・勝敗について

◎3 チームの総当たりリーグ戦の場合

時間内に勝敗が決定しない場合は、延長戦は実施せずPK戦で勝敗を決める。

順位は①勝ち点制とし、60分で勝った場合（勝ち点3）60分で負けた場合（勝ち点0）とする。またPK戦で勝った場合（勝ち点2）PK戦で負けた場合（勝ち点1）とする。

それでも順位が決定しない場合は、②得失点差 ③総得点 ④当該試合結果の順で決定する。

12 マッチコミッショナーを配置して、天候・試合運営や試合前・中・後のトラブルに対処する。

【その他注意事項】

- 1 駐車場は、付帯の駐車場を利用すること。
- 2 応援については、観覧席から行う。また、節度をもって行うこと。
- 3 競技用ピッチ周辺での飲食は禁止。喫煙は必ず館外の指定場所で行い吸殻は各自持ち帰ること。
- 4 競技中の疾病、傷害については応急手当のみ主催者側で行うが、その後は各自で処置を行う。
- 5 貴重品の管理は各自で責任を持って確実に行うこと。
- 6 ゴミ等は各自で必ず持ち帰ること。
- 7 施設の利用に関して、マナーやルールを厳守すること。
- 8 大会運営にあたる競技役員、審判員、補助員には十分礼を尽くすようにご指導ください。